

7

岩手県立大学における文化理解の内省的で共感的な概念を促すための努力

プログラム責任者 講師 スミス・ヘイミッシュ (盛岡短期大学部)



原則10： 異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

不寛容の解消と異文化理解の促進は、盛岡短期大学部の全てのクラスにおいて、多くの教師の努力の核心部分であるが、このレポートでは、数名の教師の協力から生まれた2つのクラスの側面を詳しく説明したいと思う。このクラスでは学生が文化的理解の為に想像力に富む考え方を身につけられる様支援する為の、一種の有意義な学習経験を示している。

「国際文化理解演習I」

アカデミックインパクトの原則10は、「国際文化理解演習I」のクラスの学生の学習体験に大きな役割を果たした。学生には米国の各州を調査し、クラスで紹介するプロジェクトを与えた。学生は各州の食べ物や娯楽など、表面的な文化的側面を含む基本的な説明情報だけではなく、社会文化的特徴、政治的思想、論争などのより深い要素を含む多くの州の特徴を捉え、多様且つ時には斬新な一連のリソースと情報から、住民の価値観と態度を識別した。このクラスには、アメリカ人、オーストラリア人、日本人の教師が参加し、学生がインサイダーとアウトサイダーの観点から文化を解析する機会、そしてその比較や自分の文化との相関関係、様々な観点を共有する機会を提供した。



それに並行して、様々な州に渡る多数の多様性の発見に加え、学生が過去に抱いていたアメリカ人と“アメリカらしさ”の包括的な概念への挑戦。そのプロジェクトの結論は、学生が文化とアイデンティティを



形成する要因を共同で探求するための貴重なフォーラムを提

供するに至った。このクラスは米国の議論に留まらず、将来「他」文化に直面した時に、通用するスキルと考え方を構築した。そして無意識のうちの偏見の兆候の保護として、全体的、内省的且つ共感的な視点から、文化の違いを検討する姿勢を育む機会を学生に提供した。



「西洋文化理解論」

原則10が盛岡短期大学部の学生の学習の一部であるもう1つの事例は、1年生が受ける「西洋文化理解論」のクラスである。このクラスでは、異質、不可解またはより否定的な「奇妙な」「間違っただ」と思われる文化的行動を表す為の様々な視点、または範囲を紹介し、取り入れている。

クラス全体を通して、学生は「タイト」と「ルーズ」の文化、ホフステードの国民文化6次元モデル、愛国心とナショナリズムの考え、多くの社会歴史的要因、礼儀正しさと社会規範の様々な概念のレンズを通して、「西洋」と「東洋」、又は日本の文化を超えて、人間、国民と個人のアイデンティティに影響を与える要因を探求する機会が与えられる。クラス内の主要な課題として、学生は「奇妙な」と見なした文化的行動を選択し、上記の視点の選択、または自分で選んだ分析の視点を通じて理解しようとした。これらの調査は、学生が制作したビデオプロジェクトとクラスディスカッションの基礎を形成した。

異文化間の対話を促進することを目的とした盛岡短期大学部の豊富で多様なクラスと共に、これらのクラスは、文化的行動を本質的に「正しい」と「間違っている」または「正常な」および「奇妙な」ものとして見るのではなく、より微妙な意見や行動の違いに対して、情報に基づいた他者への共感のアプローチを発展させる。これにより、将来異文化環境に適用する為の体験が、学生に提供されることを願っている。

